

SDGsをもっと身近に感じてもらうため、1月に発足した「市SDGs推進協議会」加入団体の取り組みを紹介します。

☎ SDGs推進室 (内線 421)



一般社団法人
恵那青年会議所
http://enajc.net/

「明るい豊かな社会」の実現を理想とし、会員一人一人が自分の住む地域に働きかけ、良い影響力を生み出そうとする非営利団体です。例会や事業を通じてまちをより良くしたいと、20~40歳のメンバーが、持続可能なまちづくりに励んでいます。



これまでの
SDGsの取り組み

KIDSお仕事大作戦

子どもたちが仕事をして、自分の力で稼ぐ体験をしました。



仕事の楽しさを見つけられるよ

2022年10月

栗フェス

市内の栗菓子が集合！ 恵那ならではのイベントを初開催。



2022年11月

地産地消につながるよ

恵那
ビジネスプランコンテスト2022

地域を元気にするアイデアを募集。社会人部門と高校生部門で、それぞれグランプリを決定しました。



2022年12月

恵那の活性化につながるよ

関連するSDGsの目標

本年度は、青少年育成事業や人材育成事業、会員拡大事業、地域連携事業、広報活動を通じ、目標達成に向けて取り組みます。



通学路の
安全を考えるよ

ETC 2.0 データを活用した
大井小学校区の取り組み



▲ETC 2.0とは
(国土省ウェブサイト)

学校の登下校で歩く通学路。子どもたちが毎日通るけど、車が多くて危険な場所もあるよね。今回エーナは、国土交通省、県、警察、保護者と市で、大井小学校区の通学路安全対策会議をするって聞いたから見学してきたんだ。

みんなは、車に取り付けるETCを知っているよね。今は、それが進化した「ETC 2.0」が搭載された車が増えていて、道路には、ETC 2.0からの情報を受信する機械が設置されているんだって。会議では、そこで収集したデータを国土交通省が分析して、スピードが出やすい場所や、急ブレーキが発生した場所を教えてくれたんだ。

びっくりしたのはデータで示された場所は、保護者



▲大井小学校で会議をしたよ



▲下校を見守り。気を付けて帰ってね！

や地域の皆さんが危ないと思ってた場所と同じだったこと！ 日頃の見守り活動で感じていたことが、データで裏付けられたんだね。

スピードを抑えるには、道路をわざと狭くして走りづらくしたり、道路に緑色のラインを引いてドライバーに通学路だと知ってもらったりする方法があるよ。今後、地域の特性や景観なども考えながら整備していくんだって。より安全な通学路になるといいな。

☎ 建設課 (内線 259)

恵那
くらしビジネス
サポートセンター
だより

センターを利用ください
経営の悩み、相談できます

センターでは、経営に関する悩み解決のお手伝いをします。起業に関すること、助成や補助金の活用、オンラインショップやSNSの活用などの相談ができます。まずは、電話か電子メールで予約ください。



事業計画、事業再生、資金繰り
かに えのぶゆき
蟹江信幸 (毎週火・水曜日)
県よろず支援拠点コーディネーター
事業再生支援のための経営改善計画策定や資金繰りなど、中小企業の課題解決を得意としている。

事業計画、業務改善、補助金
かとうひさのり
加藤久徳 (毎週金曜日)
リリクス経営労務事務所代表
経営労務の視点を生かし、新規事業の立ち上げから、補助金や助成金の活用、業務改善まで幅広く支援。



IT活用、HP制作
しのだりえ
篠田里恵 (第2・4火曜日)
県よろず支援拠点コーディネーター
通販サイトなどの制作経験を生かし、ウェブサイトやSNSを活用した売上拡大、個人創業のサポートを得意としている。

ネットショップ開設、運営
やまぐちひとみ
山口仁美 (第3火曜日)
県よろず支援拠点コーディネーター
ネットショップ運営経験を生かし、オンラインショップの構築やSNS活用、オンラインを利用した売上拡大のサポートを得意としている。



☎ 恵那くらしビジネスサポートセンター 恵那市大井町206-5 ☎ 26-2266 ✉ info@enalifebizsupport.jp
営業日 月~土曜日 (午前9時~午後5時) 定休日 日曜日、祝日、年末年始



物知り先生の
ふるさと情報
(三好学博士録誌2)

「孤高の植物学者」
第一話 三好学と牧野富太郎

三宅勝義さん (東野)

令和5年度の前期NHK朝の連続テレビ小説で「らんまん」と題したドラマが始まります。これは、植物学者牧野富太郎の生涯を描いたものだそうです。もとより牧野富太郎は植物学者として有名ですが、この朝ドラで取り上げられることで、さらに多くの人たちの知るところとなり、再び世に出ることになります。

植物学者といえば、忘れてはならないのが、郷土の先人三好学です。植物学からみれば、三好学は牧野富太郎に負けず劣らずの功績を残しています。という二人は、学年は三好学の方が一つ上ですが、明治の半ば頃、東京帝国大学で植物学と一緒に研究した仲です。二人とも、研究に関わることは共通して事細かに書き残していますが、プライベートのことについては、三好学はほとんど記述していません。一方の牧野富太郎は、プライベートについても多くの回顧録を残しています。その回顧録の中に時折、三好学が登場します。三好学が牧野富太郎のことを「一

朝ドラを機に三好学も世に出よう、紹介していきます。

体に若い時から、他人と交際を好まず、学生時代から孤独を愛されたやうであるから、所謂逸話というものはほとんどない」と三好学への追悼文に書いています。また、自叙伝の中では「三好学とは、仲が良かった。三好はどちらかというともちもちとした人付きの悪い男だった」と記しています。これらの文面からすると、三好学は、社交性のない孤独な人物のように映ります。しかし、人付き合いを良好に保つにはそれなりのエネルギーが必要で、そのエネルギーさえも植物の研究につき込んだとすれば、「人付き合いが悪い人」ではなく、これは「孤高の人」だといえます。

朝ドラの「らんまん」という題は、天真爛漫とした牧野富太郎の性格から取ったそうです。ならば、三好学のこの連載を「孤高の植物学者」としたらどうでしょうか。



▲三好学